

第4回 下野市総合計画市民懇話会
グループ発表まとめ

日 時 平成22年12月20日(月) 午後1時30分～4時30分
場 所 下野市ゆうゆう館会議室
出席委員 陣内雄次会長、尾花重吉委員、海老原新子委員、加藤芳江委員、鈴木祐孝委員、木村保弘委員、大橋正明委員、今井清起委員、大塚博委員
欠席委員 細川剛規委員、吉田武雄委員、松本文男委員、山口和男委員

【テーマ】

下野市における産業の良いところと悪いところについて

・・・良いところ

・・・悪いところ

(良いところと悪いところを書き出した後、それぞれ関連する項目ごとに集約・グループ化し、グループ間の関係性について整理)

Aグループ

(1) 商業の振興

<地元商店街への支援>

各商店において特徴的なものを作り出すこと
商店街のシャッターを開けるための対策
駅周辺の商店街の空洞化対策を
大型店が市内進出により小売店の営業の厳しさ

<プレミアム付商品券>

プレミアム付商品券はヒット。欲をいえば1回限りでなく！
プレミアム付商品券は市民に喜ばれている
プレミアム付商品券を年2度発行する

(2) 農業の振興

(3) 生態系

圃場整備の事業はよくされている
農家の店にもよくやっているところもある
農業者の担い手の支援

<今後の農業対策>

都市型農業の形成（農業公園、クラインガルテン、民活などで？）
集落地内の居住促進を図る。土地規制緩和
今後の農業政策をどうするのか

<ブランド化>

ブランド野菜（例：ちぢみほうれんそう）の生産支援のより強化を
下野市ならではの農業製品が生まれぬか

「道の駅しもつけ」ブランド品

（３）生態系

生態系保全整備事業は良い。資料館等でPRする

（４）観光の振興

天平の丘の取組みは良かったが。リニューアルか？
歴史ある下野市の観光PRをもっと強く外に向けて発信を！
花まつり等の行事料金を市民には安くすること
観光面でいろいろなイベントが行われるが、マンネリ化してきている
来訪者の滞留につながるシステム・事業づくり

（５）産業政策

広域的（産・学・官等）の連携による産業・次世代新商品の開発
情報関連産業の集積策
高度医療機関と連携した新商品の開発（健康食品、医薬品...）
国・県等、政策的事業の誘致
コミュニティビジネスの育成

（６）雇用の創出 =（５）産業政策

Bグループ

(1) 商業

< 地元商店支援 >

地元商店でいかに買うかが支援になるはず
地元で購買促進のプレミアム付商品券事業は続けてもらいたい
商店街がさびれている。街灯も早々と消え、飲食店のみ

< 商工会 >

商工会の一体化阻害要因がよくわからない。原因を知りたい
商工会議所が一本化できていない

< 目玉 >

特産品は何か、はっきりとした目標を立てる。カンピョウ！

(2) 工業

< 誘致 >

工業地への進出が始まっている
工業団地誘致営業方針・突攻隊の組織にして開発営業する
工場誘致、考え方を整理して関連づけてやらねば効率的でない
税収増になるので誘致は頑張ってやっていただきたい

< 立地特性 >

自治医大病院を活かした医・工を中心とした企業の集積
医療関連企業の誘致をする

地域農産物を活かした食品加工企業の誘導 商業
農産物のブランド化

(3) 農業

< 継続事業 >

環境保全型農業の推進は大変だが、長い目で続けていく
ブランド野菜の支援は続けてもらいたい
当市は半分の土地が農地なので、米の輸出がいずれ転回する時代まで米作りを続け
てもらいたい 推進の体制

農産物の第六次産業を進める

< 推進の体制 >

地産地消ではなく、地産外消中心にするべきでは
JA 管轄が小山と宇都宮に分かれたままになっている
農産物のブランド化
農地の疲弊が著しい（土地利用がされていない）
農業後継者の育成。若手育成をせねば

< あるべき姿 >

農家法人など受託会社支援を強力にやってもらいたい
農業法人設立支援
農業生産をする企業を誘導

(4) 観光

< 観光資源 >

余暇に訪れる地をアピールすべき。天平の丘、薬師寺等、使える場所がたくさんある
観光資源...天平の丘等、活用できる折角の機会を失っている
観光振興に力が入っていない。(菊まつりなどは見に来た人ががっかりして帰る) 出品数が少ない

< 観光農業 >

地域特徴を活かした農業を中心とした観光事業の育成
観光地として発展するよう努力する（市民力を活用する）
土地利用（空き地）。観光農園や観光果樹園にする
市民農園を増やし、農業に関心を持たせる

< 事業の計画性 >

「観光の総合計画」をつくることから始めないといけない
事業計画、組織と役割、ガイド養成はこれから
市としての観光の柱がない

【テーマ】

下野市における行政の良いところと悪いところについて

・・・良いところ

・・・悪いところ

(良いところと悪いところを書き出した後、それぞれ関連する項目ごとに集約・グループ化し、グループ間の関係性について整理)

Aグループ

(1) 住民参画

コミュニティ活動の充実化を！特に団塊世代の取り込みを！

行政とボランティアの関わり方は、各課とも良い関係になっていると思う

男女共同参画での講演会などには男女問わず参加者が多い

NPOもボランティアも担い手の育成がむずかしい

自治会連絡協議会とコミュニティ協議会の役割分担は？

都市内分権の推進

ボランティア支援基金の創設

<タウントーク>

いきいきタウントーク、ランチトークは、市長と身近な問題を話し合えていいことだと思う

タウントーク、各地区で年2回に、市民との対話時間をもっと取る！

いきいきタウントークの結果状況を細かく

(2) 執行機関

<公共料金とサービス>

コンビニによる自動交付

公共料金(上下水道)の料金が2ヶ月に1回になったが、この地域は料金が高いので支払いが大変だ

<情報>

とちぎテレビによるデータ放送は良い

地域情報化基盤の取り組み

情報を知る機会を多元化する。インターネットのみでは問題となる

光ファイバー、各家での利用は

情報リテラシーへの対応策

ICF（インテリジェント・コミュニティ・フォーラム）の評価される目標

<職員定数とサービス>

縦割り行政は各事業が同日にいくつも重なり参加できなくなる時もある

職員定数は目標どおりにいきますか

（３）政策形成

地域主権改革へ。シンクタンクの整備、自治体経営能力の向上策

ファシリティ・マネジメントの取り組み（公共施設の整備、管理・再配置のあり方）

都市間競争に向けた戦略策

自治基本条例の検討

歳入の確保対策

毎年度部局計画の策定

事務事業評価を十分生かす

政策広報の取り組み

（４）広域行政

定住自立圏構想を充分考慮した行政運営

広域行政の推進（課題に対応した）

庁舎建設は道州制を考慮する（規模等）

（５）議会

議会の活性化、定数・報酬の削減、政策提案

議会費の削減を求め、報酬、定数の見直し

議員定数の削減を。また議員報酬の引き下げを

Bグループ

(1) 行政経営

当市も New Public Management 思想を取り入れつつあり、期待したい
アカウンタビリティ（答責能力）
アカウンタビリティ能力涵養と情報公開
評価制度の確立は公的領域を含めて多岐にわたるので…
全国市町村で成果が出ている先進事例の情報収集が弱い
業務推進には、PFI、独立行政法人、指定管理者、三セク、市場化テストなどどん
どん取り入れる

(2) 公務員

合意形成、調整能力の獲得（新しい仕掛けづくり）
政策の変更能力の涵養（法務知識）
創造性、チャレンジ精神（余程の努力要）
暖かみのある行政も必要（効率だけでもない）
政策形成能力の充実を図る（資質向上要）

(3) 広域行政

広域行政は避けて通れないと思われるので仲良くやってもらいたい
他市町との連携不足（栃木市、壬生町、上三川、真岡）

(4) 行政サービス

横断的な協働のための窓口の創設
庁舎を早く建設し、行政機関を集中しないとやりにくい

(5) 政策立案

自治医大の講演会等、有用なテーマで続けられている
多様な政策集団をつくるべき（問題の提供）
首都圏での団塊世代退職者を意識した定住促進への取り組み
高齢者総合窓口など高齢者対応が総合的にできる組織の一本化
医療＆福祉体制の良さを活かし、若い子育て世代が住みやすい環境整備

(6) 議会議員

国政選挙の選挙区が旧町時代のままになっている

市議会議員が各出身旧町を意識しすぎが続いている
議会の結論の周知徹底が計られているか不十分
我田引水の感が残っている（議員）
立法機能を強化すべき（役割の変化）
機関として住民との対話をすすめるべき

（ 7 ）自治協働

協働のための指針・ルール作りが必要
市内各自治会の会員構成が各自治会まかせて不統一
市民力アップ

（ 8 ）男女共同

男女共同参画、情報紙等で確実に良好な結果となる

（ 9 ）健全財政

市の借金が少しは減った
財政、市として健全な運営ができていると思う。借金額の減少
合併特例債のアメとムチをもっと認知させることも大切
格差問題がこのままでは生じないか気になる

（ 10 ）情報公開

健全財政維持のためには財政指標を明示してもらいたい
三位一体改革の当市の場合の光と影を説明する財政トピックス欄を設けてほしい
財政情報のわかりやすい説明がほしい。広報の決算報告でもよくわからない